

9章 夫婦の関係性と男性の子育て

1. 夫婦の関係性による子育てへの影響

父親の子育て参加に対して、配偶者の存在が大きな影響を及ぼし、夫婦のパートナーシップのあり方などが関係することが明らかにされている(牧野, 1996)。さらに、良好な夫婦関係は、父子関係を良好にすることも判明している(永井, 2004)。そこで、この章では、男性の配偶者との関係性から、男性の子育てに対する頻度をクロス集計により検討した。

男性の子育ての頻度を測る項目は、第1章で述べられている項目(未就学児: 7項目、就学児: 5項目)である(第1章参照)。この章においても、男性の夫婦関係良好度と子育て頻度の関係を、未就学児に対してと就学児に対しての2通りにわけて分析した。

男性の配偶者との関係性を測る項目は以下の7項目である。

2. 夫婦の関係性を図る質問項目

以下の7項目によって夫婦関係の良好度を測った。尚、1番から4番の項目は、Norton's QMI(1983)から引用している。

【夫婦関係良好度】

1. 私たちは良い結婚生活を送っている
2. 配偶者との関係はとても安定している
3. 私たちの夫婦関係はとても強固である
4. 配偶者との関係は私を幸福にする
5. 私は配偶者を1人の対等な人間として認めている
6. 私は配偶者の職業上の成功を願っている
7. 私は配偶者を尊敬している

以上の質問について、[1. 全くそうでない、2. あまりそうでない、3. どちらでもない、4. まあそうである、5. かなりそうである]の5段階で回答を求めた。

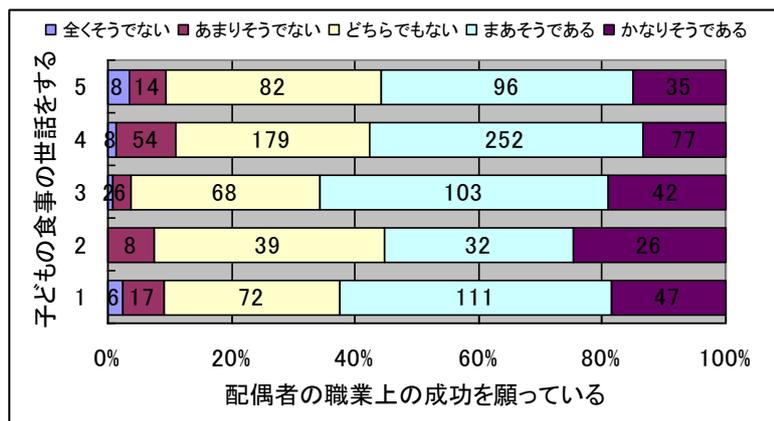
3. 未就学児に対する子育てと夫婦関係良好度

(1) 未就学児子育て項目と夫婦関係良好度項目との有意関係の結果

「1. 子どもの食事の世話をする」

子どもの食事の世話をすることと有意な関連があったのは、「私たちは良い結婚生活を送っている」「私は配偶者の職業上の成功を願っている」の2項目であった。1%水準($p < 0.01$)で有意であった「私は配偶者の職業上の成功を願っている」と「子どもの食事の世話をする」の頻度の関係を図9-1に示した。Y軸の1から5の目盛りは、1. 毎日、2. 週に5-6回、3. 週に3-4回、4. 週に1-2回、5. 全くない、を示している(以下の図も同様である)。この図から、共働きの男性の場合、子どもの食事の世話をする頻度には関係なく、約60%前後の男性が、配偶者の職上場の成功に対する認識をもっていることがうかがえる。

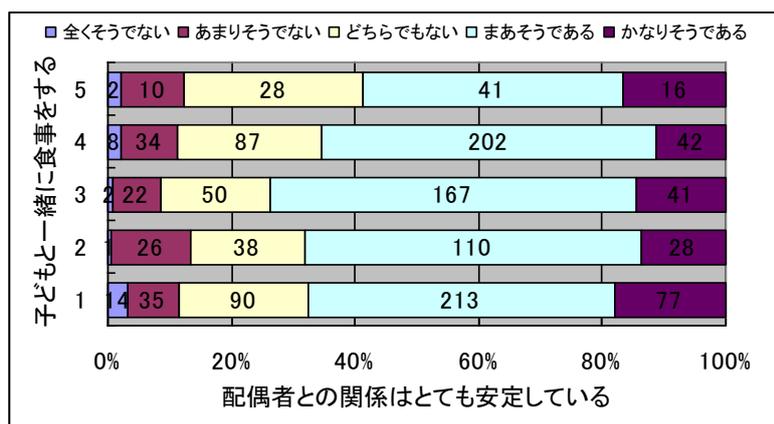
図 9-1



「2. 子どもと一緒に食事をする」

子どもと一緒に食事をする事と有意な関連があったのは、「配偶者との関係はとても安定している」「配偶者との関係は私を幸福にする」の2項目であった。このうち5%水準で有意の値

図 9-2

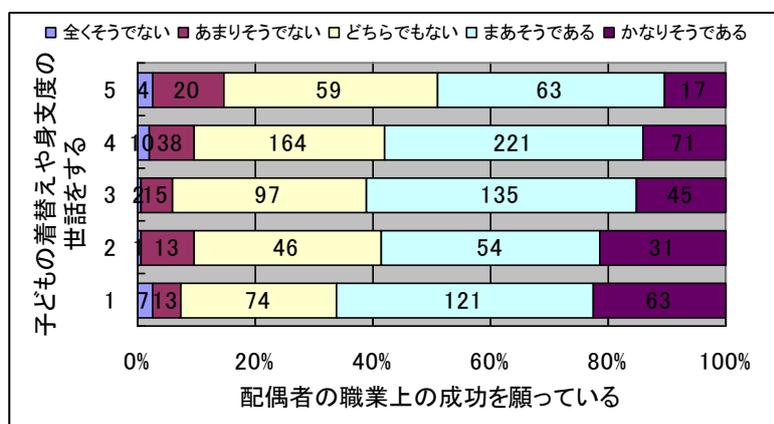


が高い方の「配偶者との関係はとても安定している」と「子どもと一緒に食事をする」の頻度の関係を図 9-2 に示した。この図から、子どもと一緒に食事をするどの頻度においても、約 60～70%の割合で配偶者との関係を安定していると認識していることがうかがえる。

「3. 子どもの着替えは身支度の世話をする」

子どもの身支度等の世話をすることに対しては「私は配偶者の職業上の成功を願っている」の

図 9-3

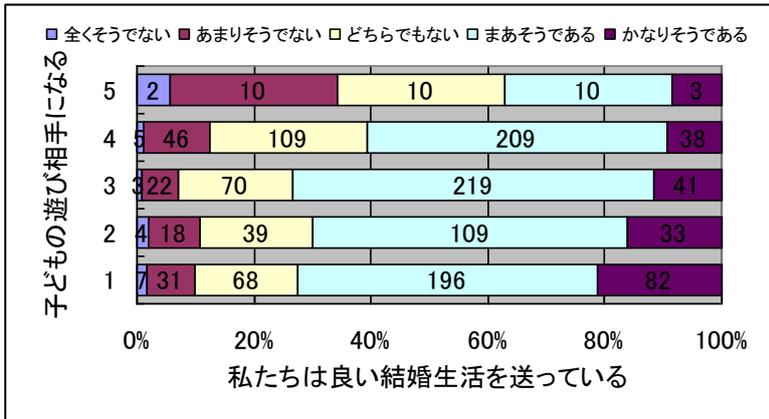


み1項目が、1%水準で有意な関連を示した。図 9-3 に「私は配偶者の職業上の成功を願っている」と「子どもの着替えは身支度の世話をする」の頻度の関係を図 1-3 に示した。この図から、子どもの身支度の世話をするどの頻度においても、約 6 割前後の割合で配偶者の職業上の成功を願っていることがうかがえる。

「4. 子どもの遊び相手になる」

子どもの遊び相手になることに対しては、夫婦関係良好度を測る7項目のすべてが0.1%

図 9-4

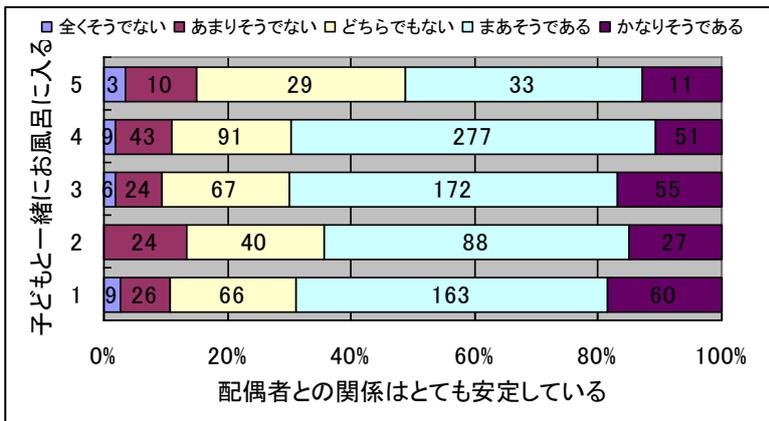


($p < 0.001$) で有意な関連を示した。その中で、「私たちは良い結婚生活を送っている」と「子どもの遊び相手になる」の頻度の関係を図 9-4 に示した。この図から、週に何度かでも子どもの遊び相手になっている父親は自分たちの結婚生活を良いと認識しており、全く子どもと遊ばない父親の6割強がそう認識していないことがうかがえる。

「5. 子どもと一緒に風呂に入る」

子どもとお風呂入ることに対しては「配偶者との関係はとても安定している」が5%水準 ($p < 0.05$) で有意な関連を示した。「配偶者との関係はとても安定している」と「子どもと一緒に風呂に入る」の頻度の関係を図 9-5 に示した。この図から、子どもとお風呂に入る頻度の多少にかかわらず、一緒に入る父親は、全く子どもと一緒に風呂に入らない父親よりも、約2割多く配偶者との関係の安定を認識していることがうかがえる。

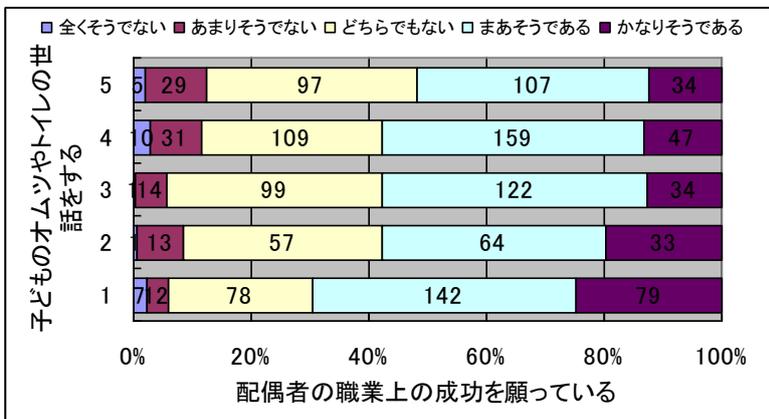
図 9-5



一緒に風呂に入る」の頻度の関係を図 9-5 に示した。この図から、子どもとお風呂に入る頻度の多少にかかわらず、一緒に入る父親は、全く子どもと一緒に風呂に入らない父親よりも、約2割多く配偶者との関係の安定を認識していることがうかがえる。

「6. 子どものオムツやトイレの世話をする」

図 9-6



子どものトイレなどの世話をすることに対しても、夫婦関係良好度を測る7項目のすべてで有意な関連を示した。その中でも特に、「私は配偶者の職業上の成功を願っている」が1%水準 ($p < 0.01$) で有意な関連であったので、図 9-6 に「子どものオムツやトイレの世話をする」との頻度の関係を示した。この図

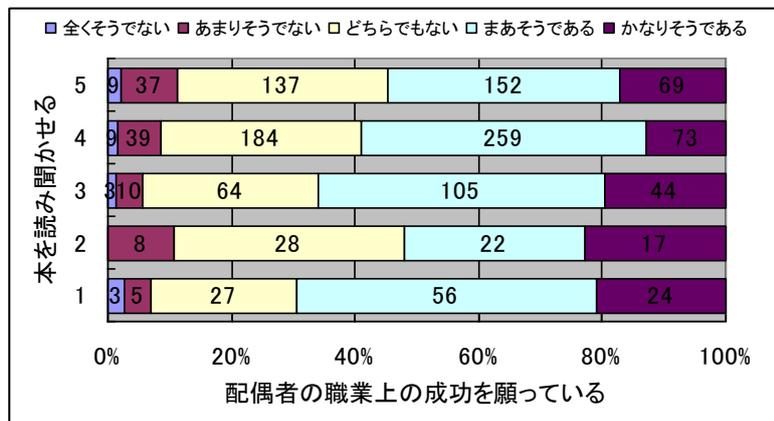
から、毎日子どものトイレ等の世話をする父親は、配偶者の職業上の成功を願っている割合が一番高いが、他はあまり変わらない割合であることがうかがえる。

「7. 本を読み聞かせる」

子どもに本を読み聞かせることに対しては、「私たちは良い結婚生活を送っている」「私たちの夫婦関係はとても強固である」「私は配偶者の職業上の成功を願っている」の3項目が5%水準

図 9-7

($p < 0.05$) で有意な関連を示した。



その中で、一番関連が強く示された「私は配偶者の職業上の成功を願っている」と「本を読み聞かせる」の頻度の関係を図 9-7 に示した。この図から、子どもに本を読み聞かせる父親の頻度と、配偶者の職業上の成功を願っている割合があまり変わらないことが伺える。

(2) 未就学児に対する子育てと夫婦関係良好度からの考察

夫婦関係良好度を測る 7 項目のすべてと有意な関係を示した子育て項目は、「子どもの遊び相手になる」ことと「子どものオムツやトイレの世話をする」ことであった。男性が子どもの遊び相手になることが、夫婦関係良好度と一番強い関連があったということは、男性の子育て行動の中で、身支度や風呂などの子どもの世話よりも、男性は子どもとの遊びの側面を受け持つ傾向があるという先行研究と一致する結果である。

しかし、今回の調査の中で、子育て行動の中でも、男性が一番大変であると感じるであろう子どものオムツやトイレの世話をすることと夫婦の関係性の良好度がすべて有意であったという結果は、共働き夫婦にみられる特徴であるといえよう。夫婦共働きということは、朝の出勤前の忙しい時間帯において、子育て行動を分担してお互いのお互いへの出勤への支度や子どもを保育園に送り出す支度などを行わなければならないであろう。夫婦関係が良好であると、まず、妻が朝ごはんの支度を行い、子どもの食事の世話や身支度等などの子育て行動を行い、その間に夫が自分の支度等を行い、その後妻は自分の身支度にかかり、夫は交代して朝食後の子どものオムツやトイレの世話などを分担するという構図が推察される。夫婦関係が良好であればこそ、お互いの支度や子どもの世話の分担もスムーズに行える様子が見られる。

また、調査対象の男性は主に夜に行う一緒に食事をするやお風呂に一緒に入ること、本を読み聞かせる等の子育て行動が夫婦関係良好度の項目と有意な関係が少ない結果であった。これは、すなわち、男性の長時間労働による遅い帰宅時間が推測され、夫婦関係の良好度の影響だけでは測れない要因も考えられる。

さらに、夫婦関係良好度の 7 項目のうち、子育て行動と一番多く有意な関係を示したのは「配偶者の職業上の成功を願っている」という項目であり、子育て行動 5 項目と有意な関係を示した。

このことは、すなわち、配偶者の職業に対する男性の意識が、子育て行動の種類や頻度に結びついているという結果を示しており、配偶者に対する尊敬や対等性よりも重要な要因であるといえよう。

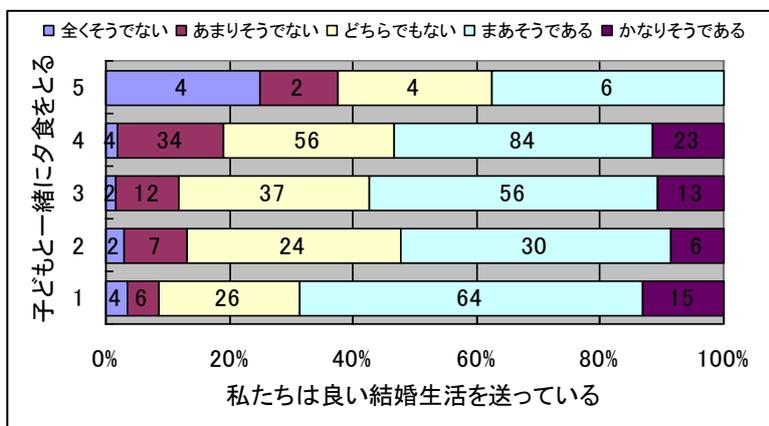
4. 就学児に対する子育てと夫婦関係良好度

(1) 就学児子育て項目と夫婦関係良好度項目との有意関係の結果

「1. 子どもと夕食をとる」

子どもと夕食をとることと有意な関連を示したのは、「私たちは良い結婚生活を送っている」「配偶者との関係はとても安定している」「配偶者との関係は私を幸福にする」の3項目であった。その中で、0.1%水準 ($p<0.001$) で有意であった「私たちは良い結婚生活を送っている」と「子どもと一緒に夕食をとる」の頻度の関係を

図 9-8



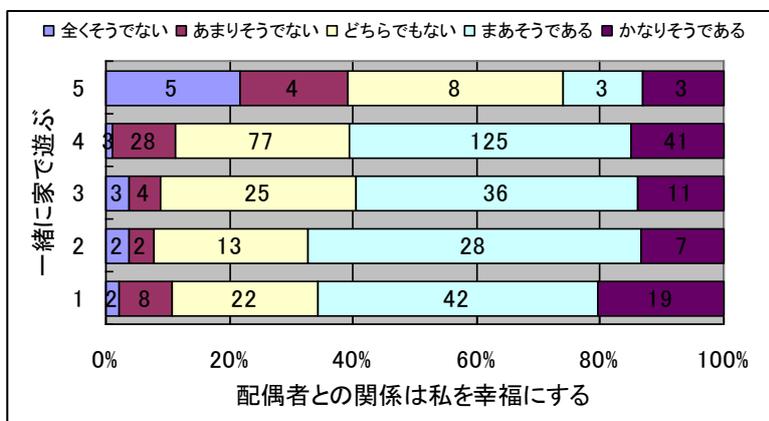
も「子どもと一緒に夕食をとる」の頻度の関係を

図 9-8 に示した。この図から、全く子どもと夕食をとらない男性の6割以上が良好な結婚生活であると認識していないことを考えると、良好な結婚生活を送っていると認識している男性は、子どもと一緒に夕食をとる傾向があることがうかがえる。

「2. 一緒に家で遊ぶ」

子どもと一緒に家で遊ぶことと有意な関連を示した5項目は、「私たちは良い結婚生活を送っている」「配偶者との関係はとても安定している」「私たちの夫婦関係はとても強固である」「配偶者との関係は私を幸福にする」「私は配偶者を尊敬している」であった。その中で、0.1%水準

図 9-9

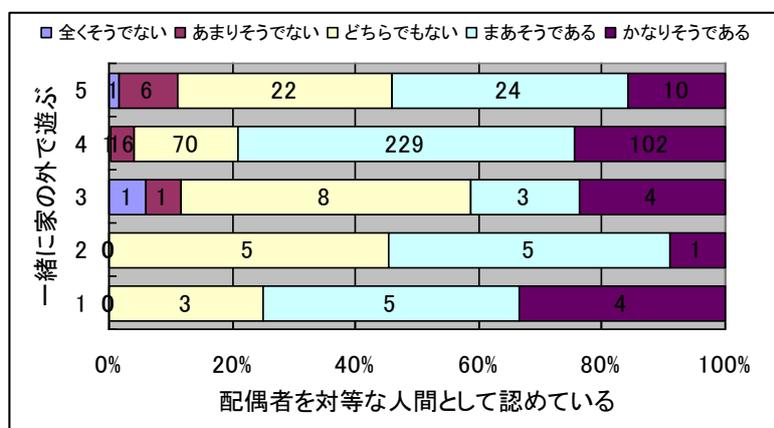


($p<0.001$) で有意であった「配偶者との関係は私を幸福にする」と「一緒に家で遊ぶ」の頻度の関係を図 9-9 で示した。この図から、子どもと全く遊ばない父親の約7割以上が配偶者との関係を幸福だと感じていないことから、子どもと家で遊ぶ父親は、配偶者との関係が良好である割合が高いことがうかがえる。

「3. 一緒に外で遊ぶ」

子どもと一緒に外で遊ぶことと有意な関連を示した5項目は、「私たちは良い結婚生活を送っている」「配偶者との関係はとても安定している」「配偶者との関係は私を幸福にする」「私は配偶者を1人の対等な人間として認めている」「私は配偶者を尊敬している」であった。その中で、0.1%水準 ($p<0.001$) で有意であった「配偶者との関係は私を幸福にする」と「一緒に外で遊ぶ」の頻度の関係を図 9-10 で示した。この図から、週に3~4回子どもと外で遊ぶ父親の配偶者を対等な人間として認めている割合が低いことがうかがえる。

図 9-10

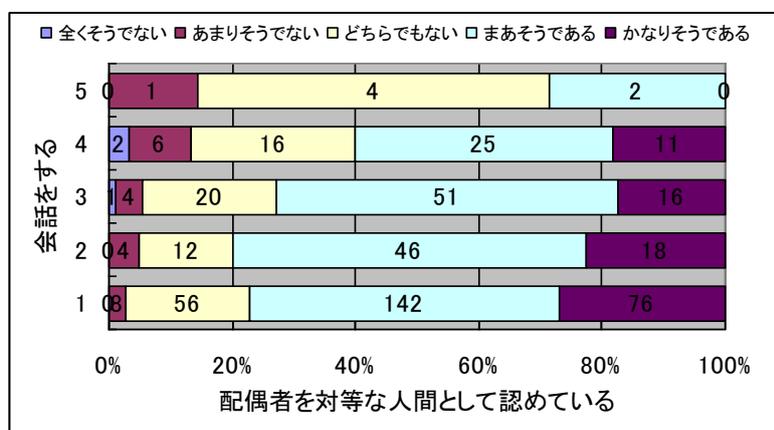


を1人の対等な人間として認めている」「私は配偶者を尊敬している」であった。その中で、0.1%水準 ($p<0.001$) で有意であった「配偶者との関係は私を幸福にする」と「一緒に外で遊ぶ」の頻度の関係を図 9-10 で示した。この図から、週に3~4回子どもと外で遊ぶ父親の配偶者を対等な人間として認めている割合が低いことがうかがえる。

「4. 会話をする」

子どもと会話をする事と有意な関係を示したのは2項目のみであり、「配偶者との関係は私を幸福にする」と「私は配偶者を1人の対等な人間として認めている」であった。そのうち、1%水準 ($p<0.01$) で有意であった「私は配偶者を1人の対等な人間として認めている」と「会話をする」の頻度の関係を図 9-11 で示した。この図から、子どもと会話をする父親は、配偶者を対等な人間として認めている割合が高いが、全く子どもと会話をしない父親の7割がそう認識していないことがうかがえる。

図 9-11

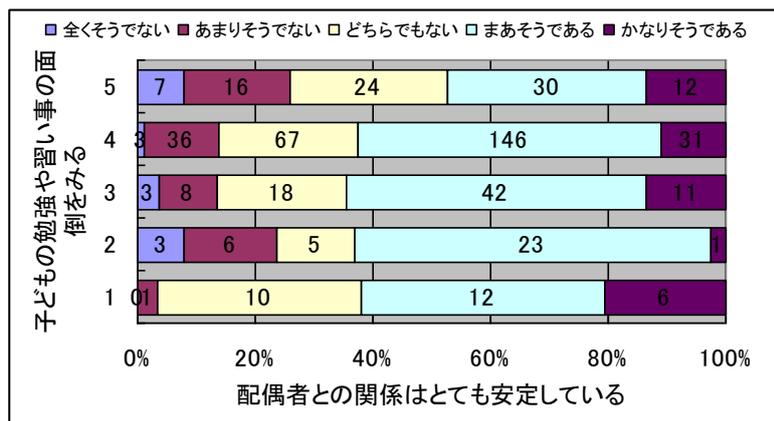


「私は配偶者を1人の対等な人間として認めている」と「会話をする」の頻度の関係を図 9-11 で示した。この図から、子どもと会話をする父親は、配偶者を対等な人間として認めている割合が高いが、全く子どもと会話をしない父親の7割がそう認識していないことがうかがえる。

「5. 勉強や宿題、習い事の面倒をみる」

子どもの勉強や習い事の面倒をみる事と有意な関連を示したのは、「私たちは良い結婚生活を送っている」「配偶者との関係はとても安定している」「私たちの夫婦関係はとても強固である」「私は配偶者の職業上の成功を願っている」「私は配偶者を尊敬している」の5項目であった。そ

図 9-12



の中で、1%水準 ($p<0.01$) で有意であった「配偶者との関係はとても安定している」と「勉強や宿題、習い事の面倒をみる」の頻度の関係を図 9-12 で示した。この図から、子どもの勉強や習い事の面倒をみている父親の約6割以上が、配偶者との関係を安定していると認識していることがうかがえる。

(2) 就学児に対する子育てと夫婦関係良好度からの考察

未就学児を持つ男性と比べて、就学児を持つ男性はそれだけ年齢も上であることから、仕事場における立場等も上がり、仕事の重責や大変さも増していることが考えられる。それでも、子どもと家の内外で遊ぶことや、勉強や習い事の面倒などをみることに對して、夫婦関係の良好度が多く関連していたことは、すなわち、先行研究にあるように、夫婦の良好さは親子関係に影響することを示唆している。就学児期（本調査では12歳以下対象）は、思春期に向かう子どもの心身の成長にとって重要かつ難しい年齢の前段階である。その年齢の子どもたちに父親がきちんと向き合い子育てをすることは、重要なことである。その意味で、未就学時期ばかりでなく、就学児の子どもにとって、夫婦の関係が良好であることと、父親の子育て行動との関連が見出されたことは意義があるといえよう。

ただ、気になる点をあげるとすれば、夫婦の関係性と父親が子どもと会話をするものの関連項目が少ない点である。このことは、やはり、男性の長時間労働による帰宅時間の遅さ等、夫婦関係良好度からだけでは測れない他の要因による影響があることが懸念される。

夫婦関係の項目からみて、就学児を持つ男性と未就学児を持つ男性の子育てを比較した場合、一番違う結果を示した項目は、「配偶者の職業上の成功を願う」である。未就学児を持つ男性の場合は、「配偶者の職業上の成功を願う」と子育て行動項目が多く関連していたのに対して、就学児を持つ男性は、勉強や習い事の面倒をみることのみが有意な関連を示した。「配偶者の職業上の成功を願う」という項目が、子どもと夕食をとることや一緒に遊ぶことなどには有意な関連が見られない項目であることを考え合わせると、妻の職業上の成功を願う夫は、妻の残業等を快く認めて応援し、自分はその日は早く帰宅して、子どもの勉強や宿題、または習い事の面倒をみるということを示唆していると考えられる。

引用文献

- 牧野暢男, 1996, 「父親にとっての子育て体験の意味」 牧野カツコ・中野由美子・柏木恵子(編) 『子どもの発達と父親の役割』 ミネルヴァ書房, 50-58.
- 永井暁子, 2004, 「父親の子育てによる父子関係への影響」 『季刊家計経済研究』 64: 55-64.